

小学校国語科における 思考を深めるためのグループ討論の実践

清水由美(青梅市立第五小学校)

キーワード：国語科、討論、思考を深める

1、問題と目的

協同学習の実践を通して、学びの交流、共有をして知識を広げることはできても、考えを変容させたり、深めたりしていくことは難しいと感じてきた。特に協同学習に取り組みだしたばかりの頃は、多くの知識を集めたり、アイデアを出したりするために代表的な技法(雪だるま転がし、ラウンドロビンなど)は大変使いやすいものである。しかしながら、考えを深めたり、変容させたりするためには、技法をただ使うだけでは成り立たず、使う際の工夫が必要になる。

言語活動の充実に関する提案(文部科学省, 2011)の中には「事実等を正確に理解した後、それを自分の知識や経験と結びつけて解釈することによって自分の考えをもつこと、さらにその自分の考えについて、理由や立場を明確にして説明することなどを通じて、自分の考えを深めていくことが重要である」と明記されている。つまり、自分の考えを理由や立場を明確にして説明する経験が、考えを深めていくためには重要なのである。

今回の実践では、この考えを深めることを目的として、小学校四年生を対象にグループでワークシートを用いた討論を行う。授業の様子やワークシートの記述から、児童の考えの変容や深まりについてまとめた。

2、実践の概要

○対象児童 小学校4年生 男子17名 女子17名 計34名

○単元名「自分の考えを伝えるには」(光村図書)

○本時の目標

- ・友達と意見が違っていても、意見を受けとめながら聞くことができる。
- ・自分の考えについて、理由や立場を明確にして説明することができる。

○授業の展開方法

- ①テーマの確認する。(三回分のテーマ「毎日食べるなら給食かお弁当か。」「夏休みに行くなら海か山か。」「動物園の動物は幸せか。」)
- ②自分の本当の考えを書く。
- ③くじ引きでグループでの意見を決める。
- ④グループで出す自分の意見と理由を書く。

⑤グループで自分の意見を発表する。

⑥質問や反対意見とその理由を書く。

⑦討論をする。(3人対3人で各チームから一人ずつ質問や反論をする)

⑧最終的な自分の考えを書く。

⑨振り返りを書く。

※この討論では勝敗を決めない。根拠をもって自分の最終的な考えを書けたことを評価する。

3、結果と考察

表1 討論後の児童の考えの変容について(34名中)

- ① 毎日食べるなら、給食かお弁当か。
- ② 夏休みにいくなら、山か海か。
- ③ 動物園の動物は、幸せか幸せではないか。

テーマ	変わった	どちらも良い	変わらない	その他
①	9%	41%	44%	6%
②	6%	43%	45%	6%
③	21%	3%	64%	12%
平均	12%	29%	51%	8%

児童の最終的な考えは、表1のような結果となった。約12%の児童の考えが討論後に変り(ここでは例えばお弁当派が給食派になることも、給食派はお弁当派になることも合わせて変化と捉えている)、どちらも良いが約29%であり、平均して41%の児童の考えに何らかの変容がおきた。このことは、自分の知識や経験と結びつけて自分の考えをもち、グループメンバーの意見にも耳を傾けたり、受け入れたりしながら討論をすることができたことが考えられる。

一方で、自分の意見が変わらなかった児童も51%いる。ある児童はワークシートに、お弁当派として「おいしいものが食べられし、お母さんが一生懸命作ってくれるから。」と意見を書いた。給食派に「栄養面で不足する」と指摘を受け、最後の感想には「お弁当には、おいしいものが入っているけれど、栄養が心配だから、苦手なものも食べられるようにしたい。」と書いた。このように討論を経験することで、考えに広がりを持つようになった児童もいた。最後まで、自分の意見が変わらなかったとしても、違う方向や逆の考えの良さを認めたり、吟味したりできる可能性がある。

参考文献

文部科学省(2011)『言語活動の充実に関する指導事例集—思考力、判断力、表現力等の育成に向けて—』